



「最善＝ベスト」だけを求めるな！
 ～改善はベター（より良く）から始めよう～

保全系Dさんの改善報告

Dさんは、工場の保全部門で仕事をしています。仕事の中にタンクの上に設置されたメーターを読み取るために、タラップを昇らなければならない作業がありました。タンクは屋外にあるので、雨が降るとタラップが濡れ、手足が滑ります。タラップを踏み外して、落ちそうになったり、手足を擦りむく小さなケガが発生していました。放っておくと、大事故につながる可能性もあります。

会社としても「昇らなくてすむように」というわけで、タンクの残量を別な形で読み取れるような設備の改善を予定していますが、タンクをいったん空にする必要や、予算の関係からすぐには実施出来ないとのことでした。

上司の課長さんは、もうしばらく待つようにと言いますが、Dさんは事故が起きないか心配です。そこで、現状でも出来る改善を考えてみました。

○ 複数のレベルから落下防止の対策を考える

① 滑りづらい工夫を考える。

(とりあえずの改善その1)

1. イボイボのついた手袋と滑り止めのついた靴を着用する。
2. タラップに滑り止めテープを貼り付ける。

すぐに設備の改善が出来ない時は、出来ることから改善しましょう。滑って危ないのですから、滑りにくい工夫をしてみました。

② 滑っても安心な工夫を考える。

(とりあえずの改善その2)

1. たとえ滑っても大丈夫なように、タラップに落下防止囲いをつける。
2. 命綱の着用を義務付ける。

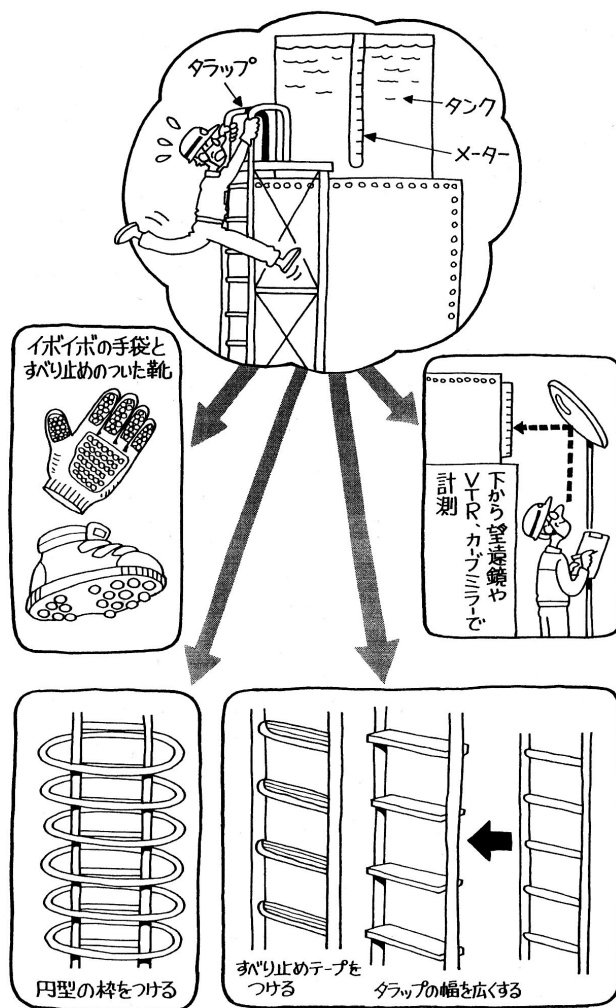
③ 昇らなくてもよい工夫を考える。

(とりあえずの改善その3)

1. カーブミラーを使って、昇らなくても計測出来るようにする。
2. VTRを取り付けて、監視出来るようにする。

タンクそのものにセンサーを取り付けるような大掛かりな設備改善を加えなくとも、とりあえずの工夫を加えることにより、よりよい方向に改善することが出来ました。

(右図参照)



改善とは「現実との戦い」です。とくにビジネスの場においては、「時間」という要素は無視できません。最善（ベスト）を求めて、すぐに対策を打つことが出来なくなるよりは、最良（ベター）に近づける方法を考え、すぐを実施することが重要です。

改善の台言葉に「100%を求めるな、51%良いと思ったらすぐやれ!」という言葉があります。完璧を求めるあまり、がえって動けなくなるようでは、変化が早い現在には通用しません。

「とりあえず」の発想を持って、それを繰り返してい、ベストに近づけていくことが重要です。皆さんも「考えすぎて動けない」人にならないように気をつけて下さい。